

わかしゃち

第5号 2000・4

土佐中・高同窓会・東海支部会報

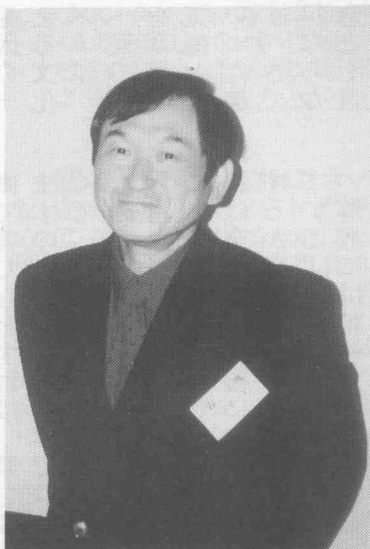
編集人/35回生 内田順子

〒460-0024 名古屋市中区正木3丁目13-13 コスモホーム 気付

TEL 052-332-3370

FAX 052-332-3372

東海支部ホームページ <http://www.sun-inet.or.jp/~bunmura/>



現代人のストレス

三十八回生 森 正博

平成十年十一月三日東京医科大学国際学術交流シンポジウムが東京にて開催されました。EU・北米・日本から、ストレス関連疾患がこれら先進諸国のいずれの地域でも激増している、という報告がありました。今やストレスは、西洋と東洋の文化差レベルではなく、もっと根源的な人間の存在に関わる普遍的なレベルでの問題であることが強く印象づけられました。

ど心の疲れを意味する「心労」がストレスの多くを占めています。ストレスは健康管理の面から、全ての人にとって当然のことながら重要な問題なのです。

第二次世界大戦後の焦土の中から立ち上がり高度経済成長を果たしたのは、戦時中には「滅私奉公」「忠君愛国」をモットーとし個人を犠牲にして、国や天皇陛下のために捧げた精神が、戦後は一転して会社や組織のために捧げられた日本人の国民性の所産ともいえましよう。

しかし、会社のためが先行し、家族団欒や自分の楽しみを犠牲にして、働き蜂・猛烈社員あるいは企業戦士と言われる人々となった結果、家庭の砂漠化も急速に進んできました。

近年、そういった有能で几帳面で会社や組織のために勤勉に役割遂行に励んでいたサラリーマンが突如、明確な理由もなく職場を放棄し、家に閉じ籠もり無気力で無為な生活を送るようになるという現

象が増えてきています。

とくに日本人は、自分の仕事を生きがいとして、定年退職と同時に多くの生きがいをなくしたように感じ、しばしば深刻な内面的危機に襲われます。子供の養育と教育を生きがいとする母親にも、子どもの自立と前後して似たような危機が訪れるのです。

あるアンケートによると、日本の老人のほぼ四人に一人にあたる二十三%が、生きがいを「まったく感じない」と「たは「ほとんど感じない」と答えています。人は生きがいを見失うと自殺指向が高まりますが、昭和五十九年にはわが国では平均寿命が八十歳台に達すると同時に、七十五歳以上の女性の自殺率がハンガリーを抜いて、世界第一位となりました。老人の自殺率は国民平均をかなり上回りますが、定年とともに自殺者が急増することは、日本だけでなく多くの国でも確認されています。

さてわが国では、人々に心

労をもたらず大きな原因の一つに頑張りズムを讃える文化があります。頑張りズムは、義理・人情・律儀さ・恥の文化を醸し出す世間体を基盤とした日本の伝統的な美德ともなっています。こういった美德をもつ人々が「すべきである」「〜であらねばならない」などの、強迫観念とも言うべき責任感・正義感・負けず嫌い・頑張り屋など、いわゆる「クソ真面目人間」となり、思考と行動の束縛、そして対人関係での障害をもたらす、ストレスで倒れることになるのです。

ところでストレスの解消については、諸家が勧めるような「規則正しい生活をする・スポーツに興ずる・趣味を持つ・親しい友達を持つ・酒に親しむ」などは、一時的な紛らわしにはなりますが、根本的な解消にはならないことは多くの症例がものがたっています。

ローマ皇帝マルクス・アウレリウスが書き残した『自省録』に「君が何か外的の理

由で苦しむとすれば、君を悩ますのはそのこと自体ではなくて、それに関する君の判断なのだ」とか、「君は多くの無用な悩みの種をきりすてることができる。なぜならばこれは全く君の主観にのみ存在するからである」と書き残しているように、ストレスからの解放には精神の内的環境を変える必要があるのです。

それは必死でものごとに取り組む頑張りズムから、「人事を尽くして天命をまつ」という中国の故人のことばにあるように、淡々とものごとに取り組むことのできる淡々イズムへの意識変容、換言すれば世間体からの解放が根本的な問題であることを意味するのです。

ストレスは、人々の心を暗くし砂漠化させそして冷たくさせます。先進諸国では、物理的な電気・水道・ガスは各家庭に行き渡っていますが、これからは各個人自らが電気・水道・ガスを引き込み、心に灯火と潤いとそして温かさをもたらし、健康管理をして

いく時代となるでしょう。医療現場でこういった問題に取り組み、患者の健康回復へのささやかな手伝いをさせて頂いている昨今です。

森心身医学クリニックの庭



学校だより

学校長 森田 幸雄

新しいミレニアムの年に入りましたが、東海支部の皆さんには益々ご健勝の御事とお喜び申し上げます。会報『わかしやち』も今回で早くも第五号と承り、刊行を支えてこられた関係者各位の熱意とご労苦に衷心より敬意と謝意を表する次第です。

さて土佐路の新春は、昨年に引き続きプロ野球のキャンプから始まりました。西武松坂人気は相変わらずの盛り上がりで、稀有の超人振りを印象づけています。また昨年の野村阪神人気はいささか下降いたしました。代わってチャンピオンフラッグはためくもと、王ダイエーが人気絶好調と、それぞれ勝負の世界の厳しさを見せつけられた感じ

です。本校も最終学期に入り、学年末諸行事が目下順調に進行中であります。最大の行事で



土佐高サッカー部
全国大会へ



ある第七十五回高校卒業式は去る一月三十一日挙行され、男子百八十五名、女子百名計二百八十五名の俊秀諸君が、岡村甫同窓会長さんのご出席のもと全校挙げての激励を受けて、勇躍鹿島立ちを果たしました。このピカピカの同窓一年生に対し、何卒暖かいご指導ご声援をお願い申し上げます。

まず。次に恒例の行事として高一生のスキー研修が実施されました。厳寒をついで越後湯沢での集団訓練でしたが、二月十八日無事三泊四日の日程を終了いたしました。その外、中学校合唱コンクールや、中学・高校入試がとり行われましたが、いずれも極めて成功裡に完了いたしておりますので、何卒ご休心の程お願い申し上げます。ところで、やや旧聞に属しますが、高校サッカー部の活動についてご報告申し上げます。第七十八回全国高校選手権大会が、旧年末から新年にかけて国立競技場などで開催され、わがサッカー部が、本県代表として出場いたしました。県下の定番校を撃破しての初出場であり、校内はもとより関係者一同大いに盛り上がりました。特に同窓会、就中関東支部やサッカー部OB会の先輩がたには、応援動員や募金活動に大変なご支援、ご協力を頂き、学校側の手不足面を完全に補い助けて頂きます。

した。改めて感謝申し上げます。次第です。結果は仙台育英の軍門に屈しましたが、二点をもぎ取った健闘振りには、文武両道の校是に恥じぬ快挙として誇りに思っております。今後とも文化部を含む部活動の振興について、ご声援を賜れば幸いです。

最後に、本年はいよいよ記念すべき創立八十周年の歳となりました。協議の結果、創立記念日の前日十一月十七日（金）を記念式典日と設定、準備作業に入っています。いづれ記念行事、記念事業の具体的な日程や実行細目も連絡されると思いますが、二十世紀掉尾を飾る記念すべき事業の成功に向けて、先輩各位の積極的なご協力の程お願い申し上げます。

寒暖不定の候、東海支部の皆さんのご健勝とご発展を心から祈念申し上げ学事報告に代えさせていただきます。

（三月三日雛祭りの日）

本部だより

幹事長 三十四回生

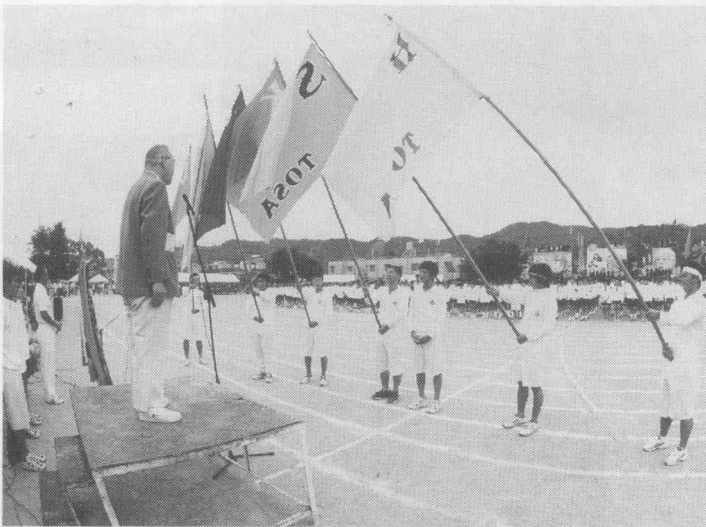
岡内 紀雄

東海支部のみなさん、ごきげんいかがですか。

高知では堀詰の白モクレンの花がほころびはじめ、春の

訪れを告げています。去年の夏は暑い日が秋の半ばまで続き、一気に冬に突入した感があって、この冬は南国土佐に数度の積雪をもたらさず、自動車道が度々通行止めとなり、うんざりさせられました。これも、地球温暖化がもたらす異常気象なのでしょう。自動車道といえば、三月十

同窓会あちこち



母校運動会のひとこま

一日には川之江JCTが開通してエックス・ハイウェイが完成、高知から徳島へは二時間ほどで行けるようになりました。

さて、同窓会本部では、今年、五年振りに会員名簿を発行すべく調査を実施しています。また、前回同様、広告の掲載を募集していますので、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

今年には母校土佐高が創立八十周年を迎え、学校では記念講演や記念式典、記念誌の作成などを計画しているようです。

このところ日本の経済は、IT（情報技術）関連を中心に、先行き明るさが期待されつつあって、バブル崩壊から長く低迷を続けた平成の不況も、そろそろこの二〇〇〇年をもって打ち止めとしたいものです。

今年の総会は、八月五日に高知新阪急ホテルで開催する予定です。みなさんのご出席をお待ちしています。

関東支部だより

事務局長 四十一回生

鶴和 千秋

ミレニアムだ、Y2Kだと騒がしかった割には、二〇〇〇年も粛々と日を重ねていきます。東海支部の皆様お元気ですか。

昨年末、母校サッカー部が初の〈全国高校サッカー選手権〉出場を果たしました。わが関東支部会報『筆山』の編集作業が終わり、印刷所に届けに行こうとした、まさにその日の出来事でした。

編集委員一同大慌て。土佐高にお祝いを伝え、写真を送ってもらい、高知新聞ホームページから情報を集め、速報記事を書き、大汗かいて紙面の組み替えを完了しました。高知のサッカー部OB会にお願いして、〈大晦日の応援の呼びかけ〉と、〈カンパのお願い〉を作ってもらい、刷り上がったばかりの『筆山』二十七号とともに、二千六百人

の関東支部会員に発送したのは、ほぼ当初の予定どおりの十二月初旬のことでした。全員の頑張りのおかげです。

緒戦の対戦相手〈仙台育英高校〉の試合のビデオを入手し、ひそかに母校に送り届けた、仙台在住のOBもいたそうです。

試合は残念ながら緒戦敗退となりましたが、応援席は、揃いの臙脂のマフラーの土佐高応援団が、三百人とも四百人とも数えられ、はるばる高知からはプラスチックバンドも仕立てて、数も熱気もはるかに相手を圧倒していました。

関東支部所有の土佐高校旗と同窓会関東支部の幟も、寒風にひるがえり、地元の実況中継画面からは、土佐高校の校歌とよさこい節しか聞こえなかった、という報告もありました。

タイムアップ前、二点目のゴールが決まったときは、まるで試合に勝ったような大騒ぎで、感激に涙する先輩諸氏も数多く見られました。選手諸君の健闘を讃えたの

ち、応援団一行はお決まりの大宴会。年齢を超え、浮き世のしがらみを越えた同窓の雄叫びは、深夜まで千葉の夜空に響き渡っていました。

この日の模様は、関東支部ホームページに写真入りで掲載されていますので、皆さん一度ご覧になってください。

ホームページといえば、ミレニアムイヤーの、そして母校創立八十周年の今年、東海支部にもいよいよホームページが開局されたそうで、お慶び申しあげます。瀬沼さんという希有の人材を得て、これからますます充実した内容に進化していくものと期待しています。

関東支部のミレニアム支部総会は、来たる五月二十七日（土）、昨年と同じ渋谷区代々木の〈オリピック記念青少年総合センター〉で行います。今年も同窓の絆を深め、皆さんに心から楽しんでいただくよう、凝ったプログラムを準備しています。ぜひ、お遊びにおいでください。

関西支部だより

幹事 四十六回生

中山眞知子

東海支部の皆様、こんにちは。平成十二年度関西支部の活動状況をお便り致します。

二〇〇〇年の支部総会に向け全力投球すべく、昨年六月以降四回の幹事会を開きました。この会議上で問題になったのは、会費を前納制にするべきか、講演会の有無、土佐料理コーナーの設置などの点でしたが、結論は持ち越しとなりました。

十二月は、母校サッカー部全国大会出場、という快挙に喜んだ次第。募金の要請に対して、支部として会員千四百名へ趣意書と振込用紙の発送作業を行いました。

Y2K問題もあり、食糧や飲料水等の買い込み騒動のある中無事二〇〇〇年を迎え、一月十五日の総会となりました。

総会は、新阪急ホテルにお

いて午後六時三十分から、百十二名の出席者で開催されました。来賓として貴支部からは大高坂支部長、母校より岡村会長と大久保副会長、関東支部は市川副幹事長、広島支部は小島事務局次長と山崎事務局補佐をお迎えして賑やかに幕を開けました。

席上、サッカー部の全国大会出場と母校紹介ビデオが上映され皆熱心に観賞。また清谷知郎氏（五十二回生）『アルプス席の全力疾走』の著者）を始めとする元土佐高応援団三名が、懐かしい白線のついた制服を着用し、応援合戦を繰り広げてくれました。会場からは「まっこと高校時代にタイムスリップしたみたいじゃにゃあ」と拍手喝采。

今後、総会反省会を開き、おんちゃんおばちゃんがより楽しく集える総会を目指したいと思えます。

『なんぶう』は、本年十一月初旬に発刊予定です。本年度は編集人も増員し、フレッシュなページを企画しております。

そして、より一層の幹事の

充実を図り、永野支部長のもと、協力一致誓いして集う同袍意気強し、のスピリットで今年も乗り切ろうと思っております。

広島市の街中に響く

♪向陽の空

広島支部 横川 清志

広島市の中心街、原爆ドームのすぐ近くに広島県民文化センターという施設があります。この場所は北西側にプロ野球セントラルリーグの広島カープの広島市民球場、北東側にさごう百貨店、さごうの北隣に三十五階建てのリーガロイヤルホテル、すぐ近くに大型電器店デオデオという中国地方最大のダウンタウンなのです。この広島県民文化センターの会場に響き渡る♪向陽の空！

平成十二年一月二十二日十五時より広島支部総会がここで行われました。広島支部は平成十年度に支部長が岡村進

介（三十回生）殿から沖修一（四十回生）殿に交代しました。その新体制で、この度来賓十名、支部会員三十九名の参加を得て広島支部総会を行いました。

広島支部は、広島県・山口県・島根県・鳥取県を範囲として、島根県十二名、鳥取県八名、山口県三十五名、広島県百二十一名の合計百七十六名の同窓生がおり、二十二%の出席者となりました。

なお、ご来賓の方々は次の通りです。土佐中高校振興会会長北島清彰様、母校浜田俊充教頭先生、三浦浩二先生、本部副会長川崎康正様、本部岡内紀雄様、関東支部山中和正様、西岡恒憲様、東海支部南毅一様、関西支部中山眞知子様、香川支部土田哲也様。

総会の講演として北島清彰様の「土佐中・高等学校振興会の現状」という課題で振興会活動についての熱気をこめた紹介があり、参加者一同、母校の現状分析を真摯に拝聴しました。郷里を離れて幾星霜、最近の母校の様子を久方

ぶりに伺い、認識を新たに致しました。

懇親会では、浜田俊充教頭先生より母校の状況報告をいただき、続いて川崎康正様より本部近況報告をいただき、大西賢一様の乾杯の音頭で懇談を始めました。互いに懐かしい顔に再会を喜び合いました。今回は大学生の参加を掘り起こし、若々しい同窓生の十二名の参加を得ました。また、今回は参加人数が増えたので、久しぶりに顔を合わす方も多く、中には卒業以来という巡り合わせも見られました。余興として、ペアになった相手を紹介するゲームを行い、相手の近況をお尋ねしました。

この後の二次会では、広島支部おなじみの「梅太郎」に集まる者、リーガロイヤルホテルでカラオケを楽しむ者、個別に談笑にふける者など、夜中まで続き、次回の支部総会（平成十二年十一月二十五日（土）広島県民文化センター）での再会を約束しつつ、散会しました。

香川支部だより

幹事長 四十回生

武山 正人

東海支部の皆様には、御清栄のこととお慶び申しあげます。

香川支部は活動を再開してまだ四年。若い世代への継承や、会報の発行、資金運営、名簿の整備等々いろいろな問題を抱えながらも、母校をはじめ本部や他支部の皆様のご協力により、昨年も恒例の総会・懇親会をにぎやかに開催することができました。

今年の総会は七月一日に開催する予定ですが、支部創設以来お世話になっていた「土佐っ子」高松店が、昨年三月で閉店したため、場所はまだ未定です。土佐ゆかりの店が少なくなるのは本当に寂しい限りです。現在新たなホームベースを開拓中です。

四国は、今年三月十一日の徳島自動車道井川池田―川之江東間の完成により、四県都

が（X字形）に高速道（通称エックスハイウェイ）で結ばれました。また、現在高知自動車道の四車線化にも拍車がかかり、これができれば高知と高松間はさらに近くさらに便利になります。

今回の開通を機に、四国エリア内の交流がますます活性化し、また三本の架橋と一体になることで、高速道による近畿、中国とのダイナミックな経済・文化圏が形成されることを、我々も期待しています。

ぜひ皆さんも、帰省や旅行の際に、高速道を利用して一度瀬戸の都高松にお越し下さい。

もう全力疾走は出来ないけれど

五十二回生 清谷 知郎

（東海支部OB）

映画『フィールド・オブ・ドリームス』を観て感動し、自分たちの力だけで本当に野球場を手づくりしてしまった連中が、広島にいる。

その名も『高宮コーンズ』。作家で監督の堀治喜氏の名著『わしらのフィールド・オブ・ドリームス』を一気に読んで、「このチームと一度対戦したい」と願い、機会をうかがっていた。

一九九九年秋、幡多医師会の研修旅行は、広島だった。早速連絡をとっての初対面である。

どこか通ずるものがあったのだろう。意気投合して、「かならずいつか対戦しましょう」と言っただけ。

そして迎えた二〇〇〇年。「キャンプ見物がたらに、高

知に来ませんか？」

この呼び掛けに、二つ返事で来高する運びとなったのだ。

こちらのメンバー集めは、比較的楽だった。

三年前の春のこと。

「卒業後二十周年を記念してクラスマッチのソフトボールをやろう！」と呼びかけて、準備万端整えた。さあ本番だという朝、バケツを引っくり返したような豪雨となってしまう。中止。

その仕切り直しとばかり、（俺もやりたい）という者が続出して、あっさりチーム結成できてしまった。

しかし素人ばかりで、あまりワンサイドになっては相手に失礼なので、野球部OBにも声をかけておいた。

二月十三日は朝から暖かく絶好の野球日和。

前夜に、シンセイサイザー奏者の西村直紀氏のアトリエに合宿して、土佐流大歓迎を受けた結果、全員二日酔いになっってしまった『高宮コーンズ』に、勝ち目などなかったのかもしれない。目は死んでたし

名古屋東山動物園の

アフリカ象



……

おまけに《高宮コーンズ》のメンバーのうち何人かが、インフルエンザで寝込んで遠征についてこられず、止むをえず八人で乗り込んだというのであった。

こちらのチームから、親友明神晃君（五十二回生）をコーンズに貸して、プレイボールとなった。試合は引き締まった投手戦が続く。

中盤に一点を先取するも、助っ人・明神の渋い（タイムリー・ライトゴロ）も出て最終回に逆転されてしまう。その裏、ノーアウト・二塁で打席に立ったのが、野球部前監督の楠目博之さんである。

四半世紀前の一九七五年夏の甲子園三回戦、同じような場面で代打に立った楠目選手は、同点打を打てずに、上尾に三対四で惜敗した。しかし今回は会心の当たりで、ライトオーバー三塁打。なんとなんと、逆転サヨナラ勝ちを収めたのである。

すかさず、取材の朝日新聞佐藤記者が、「ヒーロー・インタビュー」を始めて、ヤンヤの喝采。

《高宮コーンズ》は、おそろく（リベンジ・マツチ）にやってくるだろう。こちらも《返り討ち》を狙って、強化合宿でも組んでみようかな。全身筋肉痛のため、しばらく《喪黒福造歩き》しか出来なかつた。

「夏には《厄抜けクラスマツチ》をやるうか」という声も早速出ている。相も変わらず突拍子もないことばかりだが、《心はいつも全力疾走》のモットーだけは不変だ。（二〇〇〇年二月十七日記）



広島から草野球チームがやってきた

初対戦を終え、選手すす広島草野球チームコーンズと土佐中・高校OBチームのメンバーらに高知市北竹島町の同校グラウンドで



昨秋の約束、キャッチ

土佐中・高OBのドリーム実現

農夫が天の声に導かれ、トウモロコシ畑を切り開いて野球場をつくることになった。これがプロになったリーグの名選手がよみがえり、美技を披露してくれる……。こんな映画画面（フイールド・オブ・ドリーム）に感動し、自分たちが広島市郊外の段々畑に野球場をつくった草野球チームコーンズがこのほど高知を訪れた。土佐中学・高校のOBチームと十三日、高知市北竹島町の同校グラウンドで初対戦。

試合は接戦の末、OBチームが逆転サヨナラ勝ちした。OBチームは「いい夢を見せてくれた。土佐中学・高校のOBチームと十三日、高知市北竹島町の同校グラウンドで初対戦。試合は接戦の末、OBチームが逆転サヨナラ勝ちした。OBチームは「いい夢を見せてくれた。土佐中学・高校のOBチームと十三日、高知市北竹島町の同校グラウンドで初対戦。

高知で熱戦交流約束

高知で熱戦交流約束

もいきました。草野球は、広島での再戦や、定期戦の話も出ています。初対戦をお立てしたのは、宿市在住の医師清水節郎さん（63）。野球を愛し、土佐高在学中に応援部長をやって出た清水さんは、コーンズの監督で作家の福留さん（60）と著書「わしらのフィールド・オブ・ドリームス」(メデイア・フットボール)を著して感動。昨秋、広島に研修旅行した際、堀さんを訪ね、対戦の約束をした。試合のため、清水さんが結成したOBチームは、元野球部四人、元ソフトボール部二人、元陸上部一人、元サッカー部一人ら、第五十七回全国高校野球選手権大会（二十九日）で史上八目のサイタ。

われらわかしやち

静岡の片田舎から

ひとこと「挨拶を

三十二回生

大原佳春

東海支部の皆さま、初めまして。今後ともよろしく。

私は、一九七三年三月、住み慣れた南国土佐を後にして静岡県の中部地区、榛原郡榛原町（はいばらちよう・人口約二万五千人）にある知的障害者施設《やまばと成人寮》に転職してまいりました。障碍の重い利用者が三十名生活しています。

当時の私は社会福祉については勿論の事、まして知的障碍という分野にはずぶの素人でしたが、人間と人間の仕事として魅力あるものです。

今の仕事の内容は、利用者の一日の生活、即ち基本的生活習慣等の補助、介助です。

例えば入浴の際は一人で十七名の介助をするのですが、真夏には、慣れた仕事とはいえずすがにしんどいです。

勿論簡単な作業も行っています。土佐高時代に園芸部に所属していたことが、施設の開設当初に少し役立つことができました。今では《園芸療法》というようですが……。

その人のハンディキャップをしっかりと見つめ、どんなに重い障碍を持っていても、かけがえのない命を与えられた一人の人間として大切にされるべきであるということ。この仕事を通して改めて教えられました。

折しもこの四月からは介護保険が導入され、措置制度から契約制度に変わり、利用者施設を選択できるようになるのですが、知的障害者施設も、ごく近い将来に導入されることになるでしょう。

最近、施設での虐待といういやなニュースが報道され、改めて施設職員としての有り様が問い直されているような気がしています。そのような施設は当然淘汰されていくでしょう。

昨年十一月の懇親会で小学校からの同級生、門脇俊男氏と久しぶりに会うことができました。酒が美味かった！



向かって左が筆者

郷土料理の同窓会

三十二回生

門脇俊男

愛知県の会社に就職し、知多半島の半田市に住み着いて四十年近くになります。『わかしやち』四号の陳さんの文を読み、我が事のような思いにかられました。

入社して間もない時。先輩から「でかした」と言われて「天晴れだ」と褒められたと思ったり、（作ったという意味）、夕方「お先にご無礼します」と言われて、なんとまあ格式張った丁重な挨拶をされるものだと思縮した思い出があります。

また、母親をこちらに連れてきた日、食堂で、夕食の味噌汁の色をジッと眺めていた母が、中の具だけを箸でつかんで洗うようにして食べていた光景も懐かしく思い出しました。

同窓会をしばらくサボっていましたが、南事務局長から平成十一年十二月五日の会に

は必ず出席するように、とのきついコメントの付いた案内をいただき、久方ぶりに出席しました。

当日は、福永さん、大高坂さんに次ぐ年寄グループでした。三十二回生は、いままで下山（H）、石田（K）と私（S）が出席していましたが今回は森本（K）大原（S）と私という珍しい組み合わせ

となり、顔を見てお互いびつくりした次第です。

だんだん話しているうちに懐かしさがこみあげてきました。特に大原君とは小学校から一緒でしたので、なおさらでした。

最近の事はすぐ忘れるのに四十年以上前のことを、話とともによく思い出すなあと、我ながらビックリした次第で



東海支部懇親会 1999.12.5

す。同窓会は一時的に脳を活性化させ、記憶力を回復させる効果があるのでしようね。

帰宅して卒業アルバムを見ました。二人とも白髪が増えたり、毛が少なくなつてはいるものの、森本・大原両君に間違いないことを確認しました。

さて土佐料理の《ねぼけ》での同窓会の楽しみの一つは郷土料理です。当日のお品書きは、沖ギス、チクワ、水菜と鯨の水炊き、サバ寿司で、日ごろ《ねぼけ》に行つてもメニューには無いものを含めて、故郷の味を堪能することができ、大満足でした。

南さんが《ねぼけ》の市川さんにたぶん無理をお願いした成果だと思つていますが、とにかく感謝、感謝でありました。

私は、ときどき鯉のたたきを家で作りませんが、土佐の食べ物に関連して失敗した例もあります。知多半島では、ゼンメという小魚を売つています。これが土佐のニロギに、姿形、色までそっくりです。

太った旨そうなニロギが売っていると思つて買ってきて、七輪で二十四くらい同時に焼いて、三杯酔にどんどん放りこみ、ビールを飲むと同時に口に入れ、噛んだとたん、骨が口の中のほうぼうに刺さり苦勞しました。骨の硬い魚であの痛さは忘れられません。まだ食べたことのない人にご忠告！ ゼンメはニロギではない！

今、中部地区のビッグプロジェクトとして話題になっているのは、中部国際空港と万博です。空港は私が住んでいる知多半島の常滑市沖に、二〇〇五年に完成の予定です。家から車で三十分もあれば充分行くことができます。「ふるさと」は遠きにありて思ふもの……と考えている私ですが、空港完成のあかつきには高知の日曜市で、白い粉のふいた二十センチくらいのウルメの丸干しを買い、夕方の便で帰宅し、これを肴に一献かたむけることを楽しみにしております。

私と音楽とのかかわり

四十回生 種田 陽一

二月二十七日、医師会交響楽団の第十八回定期演奏会がやっと終わりました。今年の演奏曲目のメインは、ショスタコビッチの第五交響曲でした。

私はこの二十年間程、この楽団でバイオリンを弾いていますが、このような演奏会に出演するようになったのは、そもそも土佐中高時代の音楽とのかかわりが原点にあると思っています。

そのかわりとは、土佐中に入学して早々の頃、アパッチといわれた音楽の先生に強引に勧誘され、バイオリンの楽譜をわたされてしまいました。そして半年間の練習の後、秋の文化祭で《アルルの女組曲のファンタジー》を吹奏楽団とともに合奏したことに始まります。ここで合奏の面白さを少し味わったわけですが、その後この部は部員

不足や選曲などで問題がありほとんど廃部状態で、演奏する機会も全くなくなってしまいました。

そして中三の頃、たまたま聴いた新世界交響曲の第四章でしたが、何回も聴くうちにクラシック音楽にのめりこんでいったように思います。

以後ラジオのクラシック音楽番組をBGMとして夜遅くまで聴きながらの受験勉強がつづきました。知らなかった初めての曲を聴いた時は、誰も知らない秘密の花園に踏みこんだ様な気分でした。夜の十二時が過ぎると電波状態が格段によくなり、東京の文化放送などがよく聴こえ、愛聴したものです。これが昭和三十六〜四十年のことですからまさに深夜放送族とかながら族といわれた連中のはしりと言つてよいかもしれません。このため学業についてはかなり集中力が低下してしまいました。クラシック音楽のいろいろな曲についての知識は、かなりのものになったように思います。

モーツァルト、ベートーベン、ブラームス、マーラーなど、今年の定演の曲についてもこの頃に知った曲です。

次に決定的な動機となったのが、高三の夏休みに東大のオーケストラの高知公演を聴きに行ったことでした。私にとって生まれて初めてのフルセットのオーケストラの生演奏であり、曲目は《田園》とR・シュトラウスの《ティルの愉快ないたずら》などでした。

あの当時、R・シュトラウスのような難しい曲を地方公演した東大オケというのは驚異的であり、地方と東京との文化的ギャップなどいろいろなことを考えさせられることになりました。今でも、東大のオケは日本の学生オケの中ではトップクラスにランキングされているはずで

その後私につきましては、大学入学後すぐに交響楽団に入団しオーケストラの基本的な訓練をうけることとなり、現在に至っています。

私の所属する楽団につきま



中央向かって右のバイオリンが筆者

しては、昨年の定演はベルリオーズの《幻想》でしたし、最近は大編成の曲を演奏することが多くなっています。名曲といわれる有名な曲には、聴かせ所が随所に見られ、アマチュアが演奏してもそれなりに聴こえてくるものです。できるだけ多くの聴かせ所をつくりながら、また自分も感激を味わうためにも、この楽団でしばらくはやっていきたいと思うこの頃です。

曲目は未定ですが、来年の定演を聴きにきて下さい。

南国土佐を後にして

三十七回生 戸梶純子

名古屋から中央線で高蔵寺の駅に降り立ったのは、ちょうど一年前、沿線の桜並木の美しい季節でした。

市民病院、大学病院、県立

病院の薬剤部を経て三十年余り、薬作りの日々を過ごしてきました。そして一年前、緑が多くて空気のきれいな春日井市の山奥へやってみてまいりました。民生部に属しています。四月からは衛生部と統合して健康福祉部となります。

勤務している病院は、新生児から大人までですが、主に小児が対象なので、他の病院に比べて水薬が多く、また、錠剤を粉砕したり、カプセルを外したりと手間がかかります。また、粉薬の患者さんがほとんどなので、数台ある分包機は一日中回りっぱなしです。前々から、一人で千包も持つていくことを伝えているのですが、転勤してきて

みて、それが本当だったのでびっくりしました。

薬剤部の中に、散剤分包機は五台あるのですが、耐用年数を過ぎてしまっている十数年前のものが四台もあり、いつもいつも故障している状態です。分包作業がストップしたいへんなことになってしまっています。

春日井といえば余談になりますが、愛知県に入った最初食品衛生の仕事が二年間やりました。そのセンター保健所である春日井の、《食品衛生パトロール車》に乗って、何軒もの飲食店や幼稚園・小学校の給食施設等の監視に回ったことが思い出されます。

さて、《院外処方箋》(病院や医院で診察を受けて、薬は院外の街の薬局で受け取る方式)が、衛生部の他の四つの県立病院に続いて、四月にやっとスタートすることになりました。医薬分業の話は、三十年くらい前から聞かされていましたが、時代の流れでいよいよその時が訪れたようです。

院内の医局や、院外の薬剤師会に対して説明会を開くなど、準備に追われています。長年の慣習で行われてきた処方箋の書き方が、外の薬局では通用しないという問題点を多々抱えていますので、これからうまくいくのかを、危惧しているところです。

三月中に、三十年勤続のドクターの送別会があり、研修会での研究発表があり、準備で忙しくしています。

昨年の十二月の同窓会に、久しぶりに出席させていただき、ハリハリ鍋を囲んで、土佐弁に包まれながら、温かなひとときを過ごすことができました。南国土佐を後にして以来、過ぎ去った時の多さをしみじみと噛み締めているところですよ。

編集後記 なこや・ん?

JR名古屋駅にのっぼのツインビルが完成しました。ホテルやデパートや事務所や展望台があります。二〇〇〇年の総会は五月二十日。チャンスです。(内田順子)



土佐中・高同窓会東海支部では、一九九九年総会において、大高坂秀雄氏が支部長に選任されました。右の写真は、美女?に囲まれてごきげんの支部長です。前支部長松崎さん、長い間どうもありがとうございました。

新役員紹介

- 支部長 大高坂秀雄 (31回)
- 幹事長 竹原泰明 (36回)
- 副幹事長 村山文世 (41回)
- 幹事 内田順子 (35回)
- 山崎博司 (44回)
- 市川尚孝 (51回)
- 天造豊彦 (52回)
- 二神良太 (33回)
- 会計監査 南 毅一 (37回)
- 事務局長